【別添２】（様式例２）

# 令和元年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立不破高等学校　学校番号　29

## Ⅰ　自己評価

| | |
|---|---|
| 1　学校教育目標 | 歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。 |

| | |
|---|---|
| 2　評価する領域・分野 | ◇学校経営 |
| 3　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・生徒によるアンケートでは、満足度が70％を上回った項目が30項目、そのうち80％を上回ったのが17項目あり、高い満足度を得ている。<br>・一方で『家庭との連携』や『学校行事』の清掃については、不満足度が30％前後あり近くあり、継続した課題となっているが、部活動については70%以上の満足度があり改善された。 |
| 4　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇　生徒の実態や時代の変化に即した、活力ある学校経営の推進 |
| 5　重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する |

| 6　目標の達成に必要な具体的な取組 | 7　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| ①　コミュニティスクールとして、地域との積極的な連携交流を図り、本校の特色を活かした「ふるさと教育」を推進します。<br>②　積極的な広報活動を推進し、学校の教育活動を地域社会等にアピールします。<br>③　コミュニケーション能力の向上を図る取組の一つとして、「高等学校少人数コミュニケーション講座推進事業」の円滑実施に努めます。 | ①交流事業を精選し、効果的な地域社会との交流について検証する。<br>②マスコミへの積極的な情報提供やＨＰの充実を図る。<br>③学校設定教科「自己探求」の指導方法を研究し、生徒の困り感解消につなげる。 |

| 8　取組状況・実践内容等 | 9　評価視点 | 10　評　価 |
|---|---|---|
| ①地域社会の行事等で活動報告を行い、ボランティアによる行事運営の補助を行った。 | ①地域の活動に積極的に参加できたか。 | A　(B)　C　D |
| ②マスコミへの積極的な情報提供やＨＰの充実、メール配信システム登録の徹底を図った。 | ②学校の教育活動を積極的に発信できたか。 | A　(B)　C　D |
| ③指導計画を修正しながら、円滑に学習内容を実施することができた。 | ③対象生徒に適した指導内容を実施することができたか。 | (A)　B　C　D |

| 11 成果・課題 | 総合評価 |
|---|---|
| ○地域の他校種との連携行事においても、本校の活動報告を行い生徒の活躍する機会を作り、本校の現状を周知することができた。<br>○合理的配慮協力員の指導の下、指導計画に修正を加えながら、受講生徒一人一人に合わせた指導ができた。<br>▲本校の現状や取組状況を、より効果的に周知していく必要がある。 | A　(B)　C　D |

12　来年度に向けての改善方策案

・連携事業をさらに精選し、生徒が活動できる行事に積極的に取り組む。
・学校設定教科「自己探求」では、２年次生、３年次生と同時進行となり対象生徒の取組状況に合わせ指導計画を修正し、構築していく。さらに、１年次末には体験的な授業を設定する。
・積極的な広報活動を継続するとともに、垂井町のみならず他地域との継続的な連携を検討する。

## Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和２年２月６日

【意見・要望・評価等】

・高校としてのビジョンと課題、課題に対して解決したい事、そのために取り組んでいることをはっきりさせるとよい。
・地域に出るために基本的生活習慣や基礎学力を身につけなければいけない。逆に地域に出る機会がその動機づけになるという期待もある。今ある良い点を伸ばしていくとするとメンバーが固定しがちだが、その都度メンバーを変えながら徐々に良い点を出せる生徒を増やしていけるとよい。
・地域での体験が進路選択に生きているので継続・拡充していくとよい。

【別添２】（様式例２）

# 令和元年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立不破高等学校　学校番号　29

## Ⅰ　自己評価

| | |
|---|---|
| 2　評価する領域・分野 | ◇学習指導 |
| 3　現状､生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・全項目の満足度がほぼ７０％以上であるが、昨年度からそれぞれすこしずつ下がっている。<br>・生徒は、「学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」の項目では、満足度が90％と高く評価している。<br>・「総合的な学習の時間の内容は自分にとって有意義である」という項目も70%あったが、H30の75％を下回った。<br>・保護者は、「学校は、できるだけ選択授業や少人数授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している。」は満足度が昨年度に比べ10％以上下がっている。 |
| 4　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇基礎基本の定着とＩＣＴの効率的な取り入れ方<br>～生徒の学力向上を目指した授業実践方法の研究～ |
| 5　重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・学校活性化プログラムによる授業研究 |

| 6　目標の達成に必要な具体的な取組 | 7　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため義務教育段階までの「学び直し」を実施する。<br>②様々なＩＣＴ機器の使い方を学び、授業で活用できるようにする。<br>③加点方式を導入するなど、適切な評価の工夫に取り組む。 | ①学習において、生徒一人一人のつまずきを把握し、学習意欲を喚起させ、考査の平均点の向上を実現する。<br>②ＩＣＴ機器を使うこと自体が目的になってしまわないように、授業のねらい等を明確化し、ルールを徹底させるなどして効果的にＩＣＴを活用する。<br>また、年間３回の公開授業期間を実施し、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とする。<br>③評価の可視化の工夫、加点評価等を実施する。 |

| 8　取組状況・実践内容等 | 9　評価視点 | 10　評　価 |
|---|---|---|
| ①新入生の春の課題考査に基礎学力診断テストを実施して、生徒の基礎学力を外部指標で明確にして授業に活かした。また１年時の４月から国数英の３教科で学び直しに取り組み、基礎学力の充実を図った。 | ①学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。 | Ⓐ　B　C　D |
| ②他教科の教員で５つの班を編成し、各班で前後期に１人ずつ研究授業を実施して授業研究を行った。また、学期ごとに授業公開旬間を設け、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とした。 | ②授業評価の結果を授業改善に活かすことができたか。 | A　Ⓑ　C　D |
| ③毎時間のノート点検やプリント学習、提出課題などにおいて、検印など生徒に見える形で取組みに対する評価を、それに応じて加点して、授業へ取り組む意欲の喚起に努めた。 | ③教員が授業研究に取り組み、可視化した評価をしたか。 | Ⓐ　B　C　D |

| 11 成果・課題 | 総合評価 |
|---|---|
| ○今年度から基礎学力テストを年２回実施したことにより、生徒の学力推移を把握することができた。<br>○類型別による履修登録を指導することで生徒の進路希望と履修科目の整合を図ってきたが、安易な選択に偏らないことや後期の履修変更を視野に入れた柔軟性のある履修登録の支援を工夫したい。<br>▲生徒の授業に対する学習意欲を向上させるため、ＩＣＴ機器とアクティブラーニングをからめて、生徒が主体的に活動できる授業展開の研究を進めたい。 | A　Ⓑ　C　D |

12　来年度に向けての改善方策案

・効果的なＩＣＴ活用実践と、生徒の主体的な授業参加の工夫における授業方法の研究や授業実践に取り組んでいく。

・安易な遅刻や欠席を減らす改善策や生徒の意識改革に向けた取り組みを他分掌と連携して行う。

## Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和２年２月６日

【意見・要望・評価等】

・授業は少人数なので、複雑な活動で授業を組み立てるよりシンプルな方がよい。

【別添２】（様式例２）

# 令和元年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立不破高等学校　学校番号　２９

## Ⅰ　自己評価

| | |
|---|---|
| 2　評価する領域・分野 | ◇進路指導 |
| 3　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ・適した進路情報提供による生徒の可能性の伸長や、希望に応じた進路指導について80％の生徒が肯定的である。<br>・保護者の進路情報の提供についての満足度は77％となっている。 |
| 4　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努める。 |
| 5　重点目標を達成するための校内における組織体制 | ・教務部長、生徒支援部長、進路支援部長、各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。 |

| 6　目標の達成に必要な具体的な取組 | 7　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| ①総合的な学習の時間（不破スピリットタイム＝ＦＳＴ）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努める。<br>②企業見学を実施し、就職希望者への積極的な支援に努める。<br>③希望者の適性に応じた進学志望校の支援に努める。 | ①ＦＳＴプログラムの充実、インターンシップの推進、外部リソースとの連携<br>②キャリアプランナーの活用、ハローワークとの連携、面接・履歴書・小論文指導・就職試験対策を通して内定率 100％<br>③個人懇談の充実、内定及び合格後の個別の学習支援 |

| 8　取組状況・実践内容等 | 9　評価視点 | 10　評　価 |
|---|---|---|
| ①ＦＳＴは年間計画に基づき、組織的・系統的に実施した。夏季休業中の応募前職場見学やインターンシップも定着した。 | ①職員の共通理解のもと、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 | A (B) C D |
| ②キャリアプランナーを中心とした企業訪問を通して長年の信頼関係を構築してきた。<br>ＳＰＩ２対策、岐阜協立大学と連携した面接指導等を実施した。3/10 現在の内定率 100％<br>次年度以降を意識して企業見学を実施した。 | ②有効な支援策を実施し、内定率の向上を図ることができたか。 | (A) B C D |
| ③オープンキャンパスへの積極的な参加や進路ガイダンスをより一層に充実させた。 | ③生徒や保護者の考えを把握して、個々の適性に合った進学先の斡旋及び進学実績の向上を図ることができたか。 | A (B) C D |

| 11 成果・課題 | 総合評価 |
|---|---|
| ○外部リソースと連携した多様な進路行事の実施、進路実現に向けた取組等を行い、一定の成果を上げることができた。<br>○きめ細かい指導の結果、第一次就職試験の内定率が95.5％であったが、その後粘り強く取り組んだ結果100％まで向上した。<br>▲懇談や進路ガイダンスの実施により希望の進学先に合格できたが、それが個々の学習によるものでは必ずしもなく、また進学後の学習を充実させるための基礎学力が備わっているかについては不安を隠せない。 | A (B) C D |

12　来年度に向けての改善方策案

・地域との連携をより密にするようＦＳＴプログラムの見直しを行う。
・企業との信頼関係構築に向け、現状確認・求人開拓のための企業訪問を引き続き積極的に行う。
・早期の個別懇談を実施して、生徒自らの志望校研究を充実させることで進路先とのミスマッチをなくしていく。

## Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和２年２月６日

【意見・要望・評価等】
・人間性の面で以前より向上している。挨拶なども以前よりはしっかりできるようになってきている。

【別添２】（様式例２）

# 令和元年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立不破高等学校　学校番号　29

## Ⅰ　自己評価

| | |
|---|---|
| 2　評価する領域・分野 | ◇生徒指導・教育相談・特別活動・保健厚生 |
| 3　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | ＜本校外部評価票の集計・分析結果（生徒・保護者）より＞<br>・基本的なモラルやマナーの指導に関しては、生徒の満足度は80％に達しているが昨年度より減少し、保護者の満足度が84％に微減した。<br>・社会のルールにふさわしい服装、頭髪等の指導に関しては、生徒の満足度が88％、保護者は微減し84％であった。<br>・いじめや差別の防止指導に関しては、生徒の満足度が75％と減少したが、保護者は増加し80％となった。 |
| 4　今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇学級担任・学年会・分掌との連携を密にした生徒指導を行う。<br>◇地域社会の一員としての自覚を深め、主体的に判断し自らの行動に責任を持つとともに、自己指導能力を高める態度を育成する。<br>◇自他の生命と人格を尊重し、道徳的実践力を育成する。<br>◇積極的に共感的な生徒理解に努め、予防的・開発的教育相談を推進。 |
| 5　重点目標を達成するための校内における組織体制 | 生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)・生徒支援部会・各学年会・人権教育推進委員会・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議 |

| 6　目標の達成に必要な具体的な取組 | 7　達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
|---|---|
| ①家庭との連携を密にして、全職員の共通理解・行動連携のもと、自己指導能力の育成に努める。<br>②共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。<br>③自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。 | ①身だしなみ／遅刻者・欠席者数の比較／授業規律とユニバーサルデザイン／登下校指導によるマナー向上／情報モラルの向上<br>②迷惑調査の結果と対応／相談室・保健室利用状況／全校一斉人権啓発行動の取組状況<br>③部活動の一層の活性化／ＭＳリーダーズ活動の取組状況／ボランティア活動の取組状況 |

| 8　取組状況・実践内容等 | 9　評価視点 | 10　評　価 |
|---|---|---|
| ①遅刻者数が、平成22年度をピークに昨年度まで減少傾向にあったが、今年度増加した。昨年度1277人に対し、今年度は2月末現在で1853人である。交通事故発生件数は、昨年度11件、今年度は10件である。 | ①遅刻者数・交通事故件数は減少したか。 | A　B　Ⓒ　D |
| ②「不破高の生徒指導」と「学校いじめ防止基本方針」を改訂し職員間の共通理解と行動連携を図った。迷惑調査の結果を受けて、全体指導と個別指導の両面で、迅速に対応した。少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対し柔軟に対応した。 | ②生徒の把握に努めるとともに、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。 | Ⓐ　B　C　D |
| ③一昨年度より携帯電話・スマホ新使用ルールを運用し、情報モラル教育の推進を図った。総勢114名のＭＳリーダーズが交通安全運動への協力などを行なった。 | ③生徒が主体的に活動したか。 | A　Ⓑ　C　D |

| 11 成果・課題 | 総合評価 |
|---|---|
| ○大部分の生徒が携帯電話・スマホの新ルールを遵守した<br>○あったかい言葉掛け運動やピンクシャツデーにより、人権意識を高めた。<br>▲遅刻者数が全学年とも大幅に増加した。また、20日以上の長欠者が大幅に増加し、特に１・２年の欠席者数が増加した。 | A　Ⓑ　C　D |

12　来年度に向けての改善方策案

・生徒心得（校則）の見直しを生徒・保護者・教員の三者で行い、生徒の主体性を育む。
・中間層の生徒の規範意識、人権意識をさらに高め、「いじめ」が起きにくい環境を作る。
・遅刻防止の回数指導の方法を改めるとともに全校生徒の意識向上のため「見える化」を図る。
・特別支援教育（個別の教育支援計画、ユニバーサルデザイン）および少人数コミュニケーション講座についてさらなる整備と体制の充実を図る。

## Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和２年２月６日

【意見・要望・評価等】
・学校評価については満足や期待が数字に表れている。高評価が少し下がったことは落ち着いてきたことの表れであり、安定期に入ったと考えるべきである。生徒指導で生徒に迎合することのない指導をお願いしたい。
・規範意識を高めるため、様々な取組が行われている。今後とも生徒との信頼関係に軸足をおいた指導を継続して、不破高校の持っている魅力を示せるとよい。